

協賛・寄付のお願い

「自己犠牲」から「持続可能な熱意」へ。10年後の日本を支える、地域コミュニティの「新しい標準」を共に創る。

私たちのビジョン

現在、日本各地で子ども会や自治会が衰退の危機にあります。その最大の要因は、単なる「人口減少だけではなく」、担い手の「善意と自己犠牲」を無視して進められた、形だけの仕組み化にあります。さらに、今後の日本では人口減少は避けられず、当然、人が減れば、これまでの地理的な枠組みで地域を守ることは難しくなります。

「さい子ども会」は、この課題を解決すべく、従来の地理的な枠組みにとらわれない「理念でつながるコミュニティ」への転換を宣言しました。人口減少により物理的な「地域」の維持が困難な今だからこそ、活動の理念や考えに共感するすべての方々が私たちのチーム（地域）の一員となる。この新しい地域の定義こそが、これからの日本を支える力になると確信しています。

なぜ今、「運営費」へのご支援が必要なのか

衰退・解散が進む地域団体が多い中、今、私たちのさい子ども会は非常に盛り上がっています。また、私たちの活動は、多くの公募助成のおかげで、体験

学習などの「事業費」は一定程度カバーできています。しかし、組織の屋台骨を支える「運営費」は常に不足しています。

1. 「情熱」を維持するためのインフラ整備

ボランティア活動だからこそ、そこに「情熱」がなければ活動に意味はありません。私たちは、管理のための「形だけの仕組み」は求めません。リーダーが事務作業や調整などの雑務に忙殺されることなく、子どもたちと向き合う「本質的な活動」に情熱を注ぎ続けられる「舞台」を整えるために、運営費を充当します。

2. 「手弁当」からの脱却と正当な評価

個人の持ち出しや過度な奉仕に依存する組織は、次世代が参画する際の「バリア」となります。志ある人材が誇りを持って活動を継続できるよう、その労力を正当に評価（有償ボランティア等）し、持続可能な組織へと進化させます。

私たちの立ち位置：行政とも、特化型 NPO とも違う「第3の道」

私たちは、行政が進める「総花的な施策」でもなく、一部の NPO が進める「特定の困難を抱える対象のみへの支援」でもない、「地域全体の底上げ」を目指しています。特定の属性で子どもを切り分けるのではなく、地域に生き

るすべての子どもと親を包摂する。課題が深刻化する前に、コミュニティの力で支え切る「地域の予防医学」としての拠点を維持することが、私たちの使命です。

10年後の未来へ

ここで確立した「熱意を仕組みで保護し、地理的な制限を超えてつながるモデル」は、10年後、同様の悩みを抱える全国の地域団体の灯台（波及モデル）となります。貴団体には、単なる寄付者ではなく、この「地域再生のプロトタイプ」を共に育てるパートナーとなっていきたいのです。

【別紙】よくあるご質問と私たちの考え

Q. 公共施設を活用すれば、運営費（家賃等）は抑えられるのでは？

A. 私たちは「場所」を借りるのではなく、「運営に関わるスタッフの心と時間の余裕」を確保したいと考えています。公共施設利用に伴う細かな事務負担を最小化し、その分を「子どもとの対話」に全力を注ぐ時間へと転換するための拠点維持です。

Q. 地域の高齢者に運営を協力してもらうことは考えられませんか？

A. 私たちは「今、子どもと共に生きる当事者世代」が主役であることにこだわっています。多世代交流は重要ですが、スピード感や価値観の共有が必要な「運営」の根幹は、現役世代が自律的に回すべきだと考えています。それが、最も熱量を高く維持できる方法だからです。

Q. なぜ特定の困窮世帯などに絞らず、広く「子ども会」として活動するのですか？

A. 課題の有無で子どもを分けたくないからです。地域にいる普通の子どもたちが、当たり前のように質の高い体験をし、親たちが繋がっている。この「健全な当たり前」を維持することこそが、最大の防犯・防貧であり、地域全体の価値を高めると信じています。